

こらっせ便り



2015年6月29日

【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL : 045-353-9008

Eメール : info@korasse-kanagawa.org

「2015年度神奈川リフレッシュプログラム」へのご賛同 をお願いします

「福島子ども・こらっせ神奈川」代表 山際 正道

「福島子ども・こらっせ神奈川」によるリフレッシュプログラムをはじめとする諸活動推進に対するご支援ご協力大変ありがとうございます。

東日本大震災による地震・津波・原発災害から4年を経て、檜葉町でも帰還の動きが本格化するなど、被災地も徐々に変わりつつあります。こうした中で国民の関心が薄れてきているような気がしてなりません。私たちにとって必要なことは、あの災害を決して忘れないことだと思います。そのうえで、現地の仮設住宅などで生活をされている方々、特に子どもたちの健康と学習を守り育てることが問われていると思います。



歓声があがる水遊び(今年のプログラムから)

これまで福島県檜葉町の小中学生を中心にリフレッシュプログラムを3回実施してまいりました。福島県檜葉町・同教育委員会、神奈川県山北町・同教育委員会、神奈川県・同教育委員会、(財)神奈川県高等学校教育会館等のご後援をいただき、多くの皆様のご支援ご協力によって当初の目的を達成してきたと自負しております。特に、多数の大学生の参加を得たことは、極めて大きな意味があったと考えております。

4年目の今年は、8月3日～6日に山北町中川温泉にある丹沢荘で「保養と学習、交流」を目的として実施します。山北町教育委員会のご協力でも新企画「星空ウォッチング」も行います。

昨年からは、夏のリフレッシュプログラムに加えて、大学生を中心として檜葉中文化祭への参加、檜葉町サポートセンター「空の家」での現地交流会、現地学童保育の支援活動などを通じて交流をはかってまいりました。このような活動を通じて、参加された生徒の皆さん、ご家族、学校関係者などとの信頼関係を少なからず築けたのではないかと思います。

私たちとしては、こうした活動を継続的に実施するためには「移動教室」を実現することが必要と考え、文科省に働きかけを行ってまいりました。私たちだけでなく多くの学校関係者、市民団体の要望もあって、2014年度から福島の子どもたちの県外での「移動教室」に予算がつきました。今後、学校や市民団体がさらに活動しやすいものに発展させていくことが必要と考えております。

皆様！私たちの活動をご理解いただき、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

－キックオフ講演会報告－

福島っ子とともに「生きる力」を 「保養」・「移動教室」、そして「交流」へ

5月23日（土）横浜社会福祉センターで、2015年度「神奈川リフレッシュプログラム」に向けたキックオフ講演会が開かれました。今年のタイトルは「福島っ子とともに『生きる力』を、『保養』・『移動教室』、そして『交流』へ」。約50人が集まり、熱心に講師の話聞き、議論しました。

集会は、まず山際正道代表から「文科省に働きかけて、福島の子どものための県外での『移動教室』に予算がつきました。私たちは残念ながら対象になりませんが、『移動教室』の輪は確実に広がっています。今年も『リフレッシュプログラム』を成功させましょう」とあいさつがありました。

保養から移動教室へ

最初に福島で放射線量測定によるマップを作成し、また子どもたちの移動教室を手がけてきたNPO法人シャローム災害支援センターの吉野裕之さんから、「原発事故から4年を経て、福島の子どもたちは－『保養』・『移動教室』・『交流』は今こそ必要－」と題して話がありました。



2011年3月15日の夕方4時に福島市では24.24mSv/hでした。放射線では0.6mSv/hを超えると子供は立ち入り禁止ですから、24.24mSv/hがいかに高かったかが分かります。できるだけ放射線量の低いところに移動することが唯一の対策です。子供は放射線を一回取り込んでも新陳代謝が激しいので、放射線がまったくないところに38日間以上いると、元に戻ります。被曝を溜めないために一定の期間外に出す、これが「保養」の考え方です。

2011年の5月に京都の学生が保養プログラムを始め、多くの民間のプログラムが始まりました。だれもが公平に参加できて、定期的に必ず行けるようにするには、学校ぐるみで取り組むのがベスト。教育委員会や学校に働きかけ、のちに移動教室となりました。2012年2月に全国サミットが開かれ、10月には参議院議員会館で院内集会を経て移動教室の考え方が全国的に広がりました。

伊達市教育委員会は、震災前から1週間集団生活をする「通学合宿」を福島県内の霊山のロッジでやっていました。震災でできなくなり、新潟県見附市でやることになりました。3年間で21校の移動教室をやりました。厳しい財政、大規模校の受け入れ、保護者の理解などの問題がありましたが、「伊達市移動教室支援委員会」をつくり、NPOの協力（シャロームも参加）もあって実現しました。

シャロームではこのほか3件（山形県河北町、川崎市、岩手県遠野市）を手がけています。遠野市では馬屋が一体となった曲がり屋4棟を借り切って180人が泊まったこともあります。自分で作ったわらでわ

らじを作ったりしました。私たちは、河北町週末リフレッシュプログラムを続けてきたのですが、ここでつちかってきたものが移動教室に役立ちました。

移動教室は、子どもたちにとって知らない場所で新しい体験をすることで、自分の地域を見直すきっかけになります。また、クラスでの自分の立ち位置を確認できる機会になって、帰ってからの子どもたちの動きもよくなったという評価もあります。保護者の感想は、心配したけど出してよかったということです。教職員同士の交流で、教え方などで勉強になったようです。

「生きる力」と文科省も言っていますが、自分で課題を発見して解決する力は、「交流」を通じた「体験」でこそ得られると思います。外で遊ぶよりも家の中で遊ぶことを好む傾向が強まっています。運動能力が落ちると、思考力が落ちるので勉強がおろそかになる子も出ていて、福島県教育委員会もプログラムをやったりしていますが改善されていません。

子どもサイズの測定でわかったこと

保養・移動教室と別ですが、子どもたちの背丈に合わせた放射線測定を行ってきました。ベビーカーに10cm、50cm、1mの高さに測定器をつけ、全自動で記録できるようにしました。それをマップに位置づけることができます。そうすると地域の放射線量マップができるわけです。同じ地点でも10cm、50cm、1mで測定値は異なります。この3点測定をビデオで撮り映すことも可能にしました。こうして測定すると歩道は高いが車道は低いことが分かります。車道のアスファルトは堅いものを使っていますが、子どもが歩く、歩道は荒いものを使っています。これだけで放射線量が違うことが分かったので、学校にも情報提供しています。表の道の歩道ではなく、堅いアスファルトを使った細い道を歩いた方がいいわけで、これを学校が子供に教えればいいわけです。

徹底して除染を行った公園は大丈夫ですが、子どもは遊んでいません。みんな疑心暗鬼になっているからです。大丈夫なところとダメなところ、こういう情報を共有化すればいい。測る時も近くの保育園の人とか町内会の人に来てもらい、情報を共有するようにしています。

吉野さんの講演に大きな拍手がありました。講演の後、フロアからの質問、意見を受けました。特別支援学級のプログラムのほか、他の地域で受け入れを行っている人などから発言がありました。

学生も報告しました



「こらっせユース」の大学生は、二組に分かれて発表しました。

第一組は山崎さん、平戸さんの「大学生が見た檜葉と子どもたち」で、いわき市の仮設住宅にある学童保育を訪問したときの体験談、また檜葉町を車で案内してもらったときの印象を、たくさんの写真を使って語ってくれました。(詳しくは前号の「こらっせ便り」を参照)

第二組は大内さん、日高さんの「リフレッシュプログラムについて」で、2014年夏の山北町と横浜市でおこなった4泊5日のプログラムの内容について、こちらもたくさんの写真を使って報告してくれました。どちらの報告も、パワーポイントを使ったプレゼンテーションが上手で、学生の感性がよく伝わってくる、とてもわかりやすい内容でした。

2015年度 神奈川リフレッシュプログラム

今年は山北町教育委員会から、冨川・加藤元校長先生による強力なサポートをいただけることになり、川遊び、ウォークラリー、星空ウォッチング、バーベキュー、キャンプファイアーなど、山北の自然を楽しむイベントを企画しています。今年は土星がきれいに見えるそうです。

最終日は横浜に移動、みなとみらい地区で、横浜散策をします。「横浜での時間が短い!」との参加者からの声が多かったので、今年は長めに時間をとりました。

日程(予定)

日時		場所	プログラム
8月3日(月)	AM8:00 午後 夜	いわき市小太郎公園集合 山北町丹沢荘着	オリエンテーション・遊び 歓迎の夕べ
8月4日(火)	午前 午後 夜	丹沢荘	学習 川遊び 星空ウォッチング・花火大会
8月5日(水)	午前 午後 夕方	丹沢荘	学習・化石のレプリカ作り ウォークラリー 川原でバーベキュー +キャンプファイアー
8月6日(木)	午前 午後 夜	横浜へ移動 横浜みなとみらい出発 いわき市小太郎公園到着	横浜散策 グループごとにランチ

可愛い柵葉グッズで～す!



「和布細工工房 ほのぼの」を主催している高原カネ子さんと知り合いになりました。避難生活を送っている柵葉町民を元気づけようと着物の古着を使って素敵な作品を作っていて、メンバーは70人以上にもなるとか。材料の古着物は高原さんが1年間避難生活を送っていた藤沢の市民から寄贈されたものだそうです。神奈川との縁を感じます。

作品を購入してもらうことが生きがいにつながるということもあり販売をスタート。代金の一部は柵葉町の復興のために寄付をしているそうです。和布細工は他の被災地に送り感謝され、そのことがメンバーを元気づけたと高原さんは語ります。

「こらっせ」でもイベントなどで販売をしています。写真のふくろうストラップ(300円)、小花ストラップ(300円)、どんぐりブローチ(800円)、あじさいブローチ(1000円)です。お友達へのプレゼントにいかがですか。10個以上の注文で送料を負担していただければ郵送します。